

「(2018年 浙江大学スプリングスクール) 参加報告書」

京都大学農学部1年 橋本彩

最も顕著な学習成果として挙げられるのは、中国語のリスニング力の向上です。留学先大学でクラス分けのために面接を受けた際、私の面接を担当してくれた教員に勧められ、少しレベルが高めのクラスに入りました。そこでは他の生徒は中国語で会話し、教員の説明も教員への質問もすべて中国語で行われていました。大学の中国語授業以外で特に中国語会話を学んだりしていなかった私にとって、かなり厳しい環境でした。しかし留学一週間目には授業のかなりの部分が理解できるようになりました。ネイティブのスピードに一定期間さらされたことで、聞いて理解する能力は格段に上がったと思います。

海外での経験について。今回の短期留学では平日にクラスメートと授業を受けた後放課後は杭州を見て回り、週末は休暇で他の街に出かけました。その日程のおかげで、この地域の様々な景色を見ることができたと思っています。例えば、人々がどのような移動手段を使っているか、いつどのような食事をするのか、誰とどこに出かけるのか、等です。決して観光地だけを回ったわけではないので、そこで暮らす人々の実際に触れられたと思います。これは海外旅行によって得られる経験とは少し違っていると思います。

プログラムの内容としては、かなり充実していました。何もやることが無い時間などなかったというのがその理由です。毎日授業があり、放課後もボランティアに博物館など様々なスポットに案内してもらいました。完全なる自由時間もありませんでしたが、同じ京都大学の学生たちと計画し遊びに行ったため退屈する時間はありませんでした。しかしその反面、予定が詰まりすぎていて息切れすることもありました。二週間という限られた期間の中では仕方のないことですが、自分でアレンジメント出来る自由時間がもう少し欲しかったというのが正直なところです。加えて、プログラムの中に組み込まれていた現地大学生へのプレゼン発表が負担でした。発表会自体は非常に有意義で楽しい物でしたが、現地でその準備のために割かなければならなかった時間が勿体なく感じました。日本で完成まで近づけてからいくべきだったと思います。また発表前日から手直しをしなければならない状況であったため、その点は今後改善すべきだと思います。

進路への影響についてです。この留学で変わった点と言えば、自分の選択肢に将来海外で働くことが入ったということです。そもそも海外で働くことにそれほど抵抗を感じていたわけではありませんが、以前はあっても就職し働き始めたのちに海外赴任になる位だろうと思っていました。しかし今回のプログラムに参加していた他の学生で、既に海外赴任することが決まっている人がいて、話を聞くうちに自分のなかでも海外で働くことに対するハードルが低くなっていきました。仕事は遊びの延長ではないため、現在の海外の友人との付き合いとは違っているとは思いますが、しかし今回のように海外での刺激的な交流を持つと、どうせなら海外で働けるくらいまで英語・中国語能力を向上させたいと思うのです。